

News Release



本資料は 2013 年 6 月 25 日に BASF 本社(ドイツ)で発表された K2013(国際プラスチック・ゴム産業展)記者発表会でのプレスリリースの抄訳です。

BASF の生分解性樹脂 ecovio[®]が、コーヒーカプセルとカプセルを包む包装材に初めて採用

2013 年 8 月 1 日

■ コーヒーの新たな楽しみ方に貢献

BASF の生分解性樹脂である ecovio[®](エコバイオ)の射出成形用グレード ecovio[®] IS 1335 が、初めてコーヒーカプセルに採用されました。また、コーヒーカプセルを包む包装材には、ecovio[®]をベースとした、バリア特性を持つ多層フィルムが採用されています(写真参照)。BASF は、スイスを拠点とするスイス・コーヒー・カンパニー社の協力を得て、コーヒーカプセルと、コーヒーの香りを保持する包装材の開発に成功しました。再生可能資源を主成分とするこの包装材は、商品を保護しながら、高圧のコーヒーメーカーでコーヒーを抽出する厳しい要件をクリアし、さらに堆肥化が可能です。

幅広い ecovio[®]製品ラインアップ

BASF は、6 年前に生分解性樹脂 ecovio[®]の発売を開始しました。欧州の生分解性規格である EN 13432 に規定される、生分解と堆肥化が可能な ecovio[®]は、主に再生可能な原材料を使用しています。また、さまざまなフィルム用途での実績があります。ecovio[®]の初期における主な用途分野は、有機性廃棄物の回収に使うゴミ袋や農業用のマルチフィルムでしたが、射出成形に最適な新グレード ecovio[®] IS 1335 や、バリア特性を備えた多層フィルム向けの ecovio[®]などをはじめとして、BASF は ecovio[®]の製品ラインアップを拡充してきました。BASF のこれらの製品は、スイス・コーヒー・カンパニー社の大量消費される製品を、持続可能なも

のにすると同時に、トレンドになっているカプセルタイプのコーヒーメーカーにも対応しています。

堆肥化処理を促進する包装材

ecovio® IS 1335 のみならず、コーヒーカプセル自体も、欧州の生分解性規格 EN 13432 の認定を受けています。さらに、カプセルを包む包装材も同様に生分解性の材料で作られています。この包装材の構造は、3つの機能層から成り、外側の紙ベースのキャリア層の内側に中間層である薄いバリアフィルムがあり、さらにその内側に ecovio®をベースとする密封層があります。これらの3つの層はすべて EN 13432 の認定を受けています。この3層は、BASF の堆肥化可能なラミネート接着剤 Epotal® Eco (エポタールエコ)で接着されています。この包装材は、水分、酸素と香りを維持する、コーヒーの包装に関する厳しいバリア要件を満たしています。

市場における大半のコーヒーカプセルがアルミニウム製の中、スイス・コーヒー・カンパニー社が提供するコーヒーカプセルは生分解性で、コーヒーを飲み終わった後の使用済み包装材も、堆肥化可能です。食べ残しなどの付着が多い食品包装材の場合、BASF の ecovio®のような生分解性樹脂が適しています。

BASF で行われた社内試験で、実際の堆肥化環境における使用済みコーヒーカプセルの分解が確認されました。販売初期段階においては、スイス・コーヒー・カンパニー社自らスイスの堆肥化施設で堆肥化を行う予定です。

スイス・コーヒー・カンパニー社とその製品「beanarella」

2012 年末頃から、スイス・コーヒー・カンパニー社は、コーヒーメーカーと、生分解性樹脂製のカプセルに詰めたコーヒーをセットで、スイス国内において「beanarella (ビナレラ)」というブランド名で販売しています。同社の創業者は、2011 年にこの商品のアイデアを思いつき、わずか 13 カ月という開発期間で、射出成形された生分解性樹脂製のカプセルに詰めた、高品質なコーヒーの販売を開始しました。同社の目標は、高品質のコーヒーを市場に提供すると同時に、社会的、環境保護的観点から、コーヒー製造における厳しい基準を守ることです。またカプセルを包む包装材も同様

の基準を満たす必要がありました。

販売ターゲットと販売チャネル

スイス・コーヒー・カンパニー社は、楽しみや生活の質に対する高い基準と、できる限り健康で持続可能なライフスタイルを結び付けたいと願う消費者を主要なターゲットグループとして、この製品を販売しています。欧米では、この特定のターゲットグループは、人口の 10%を占めていると推定されています。ドイツだけでも、500 万世帯が該当するという研究結果があります。

スイス・コーヒー・カンパニー社はまずは、このコーヒーを 2 つの流通チャネルを通じて、スイスで販売します。一つは、スイス東部のオフィス家具の最大手のプロバイダーである Leomat（レオマット）社です。同社は、beanarella システム一式をオフィス向けに提供し、使い終わったカプセルとカプセルを包む包装材も回収しています。もう一つのチャネルは、インターネットです。一般顧客は近いうちに、スイス・コーヒー・カンパニー社から、インターネットで製品を購入できるようになります (www.beanarella.ch)。インターネット販売の場合、外部業者に使用済みのカプセルと包装材の回収を委託する予定です。

資源としての堆肥化

食べ残しなどの、少量の有機性廃棄物の付着を含む、コーヒーカプセルのような包装資材は、その有機性廃棄物と包装材を切り離して回収できないので、焼却や再生利用するのではなく、堆肥化するのが合理的です。さらに、コーヒーは堆肥の組織構造を解きほぐす優れた物質であるため、堆肥化に最適です。

また、この堆肥化は、堆肥の増量につながるだけでなく EU の廃棄物処理目標にも寄与します。各種科学的研究では、現在欧州では、有機性廃棄物のうち分別廃棄処理されているのがわずか 30%と推定されています。多くの国々が、高い割合で他の廃棄物と一緒に埋立て処分を行っています。埋立地の廃棄物からメタンガスが発生し、その結果、二酸化炭素のおよそ 20 倍も、温室効果を促進する可能性が高くなります。有機性廃棄物が欧州

全体で分別収集され堆肥化された場合、廃棄物処理による温室効果ガス排出は、30%も削減される可能性があります。さらに堆肥は、たとえばリンなどの大切な栄養素を含んでおり、天然肥料として植物の成長や農作物の生産には欠かせないものです。リンは合成的に得られる物質ではなく、堆積物によってのみ得られる物質です。一方で、焼却される場合、生ゴミは水分を多く含むので、膨大なエネルギーを消費することになります。それに対して有機性廃棄物の堆肥化は、貴重な資源である堆肥を生成するだけでなく、社会全体にとって費用対効果の高い廃棄物処理のアプローチです。

K2013(国際プラスチック・ゴム産業展)記者発表会

発表者:ラーシュ・ボーガー(BASF、ヨーロッパ グローバル新規事業開発担当責任者、生分解性プラスチック担当)

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は世界をリードする化学会社「The Chemical Company」です。製品ラインは、化学品、プラスチック、高性能製品、農業関連製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASF は、経済的な成功、社会的責任、そして環境保護を同時に実現しています。また、BASF は科学とイノベーションを通して現代社会や将来のニーズを提示しながら、ほぼすべての産業のお客様を支援しています。BASF の製品とソリューションは、資源の確保に貢献し、栄養価の高い食品を提供するとともに、生活の質の向上に寄与しています。BASF はこれらの活動を企業目標として「私たちは持続可能な将来のために、化学でいい関係をつくります」を掲げています。2012年の売上は約721億ユーロで、従業員数は約11万人です。BASF の詳しい情報は、www.basf.com(英語)、newsroom.basf.com(英語)、www.japan.basf.com(日本語)をご覧ください。